



## RS ウイルス感染症



RS ウイルスは乳児の急性気道感染症の主な原因のウイルスです。発熱、鼻水、咳などで発症し、2～3日してゼーゼーを伴い、痰の切れが悪くなるのが特徴で、通常1～2週間で軽快します。しかし2歳以下の乳幼児ではかぜの症状から下気道に進展し、細気管支炎、肺炎を発症することがあります。特に6ヶ月以下の乳児ではゼーゼーが強く入院になる場合もあります。秋～冬に流行し、2歳までにほぼ100%の児が感染します。一度感染しても感染防御免疫は不十分で何度でも感染します。通常再感染のたびに症状は軽くなっていきます。呼吸器や心臓に慢性的の病気をもつお子様は重症化することもあり、注意が必要です。

### ➤ 感染経路

咳やくしゃみを吸い込むことによる飛沫（ひまつ）感染です。

### ➤ 潜伏期間

2～5日間

### ➤ 治療

対症療法が主体です。発熱に対しては冷却とともに、アセトアミノフェン（アンヒバ、カロナール）などの解熱薬を使用します。喘鳴を伴う呼吸器症状に対しては、咳止め、痰切りの薬、気管支拡張薬を使用します。脱水気味になると、痰が粘って吐き出すのが困難になるので、水分の補給に努めます。細菌感染の合併が疑われるときは抗生物質を使用します。

### ➤ 家庭で注意すること

接触感染の予防には手洗いが、飛沫感染の予防にはマスクの着用が必要です。

石鹼、消毒用アルコール、塩素系消毒薬（キッチンハイター）などにふれると容易に感染力を失います。

ワクチンはありませんが、未熟児、心疾患のある児にはシナジスという抗体を注射して予防することができます。

ウイルスの排泄は7～10日間続くと言われています。食事制限はありません。熱が高く元気がない場合には、水分を多めにとらせてあげてください。

